

海辺の花

- [アゼトウナ](#)
- [イワダレソウ](#)
- [コウボウムギ](#)
- [コマツヨイグサ](#)
- [オオキバナカタバミ](#)
- [センニンソウ](#)
- [タチアワユキ](#)
[センダングサ](#)
- [ツルソバ](#)
- [テリハノイバラ](#)
- [ナノハナ](#)
- [ハギクソウ](#)
- [バクヤギク](#)
- [ハマアザミ](#)
- [ハマカンゾウ](#)
- [ハマゴウ](#)
- [ハマダイコン](#)
- [ハマナデシコ](#)
- [ハマニガナ](#)
- [ハマヒルガオ](#)
- [ハマユウ](#)
- [用語集](#)

アゼトウナ

- 海岸近くの岩場に生える菊科の多年草。在来種。
- 主幹は太くて短く葉をロゼット状につける。
- 若い株は葉を付けるだけだが、成長すると側枝を出し花を付ける。
- 撮影：11月下旬



イワダレソウ

- 日当たりの良い海岸の岩場を好む在来種。多年草。
- 小花は下から咲く。茎が分岐し地を這い、節から根を出す。
- 愛知県では準絶滅危惧種に指定されている。
- 改良種のクラピアや南アフリカ産のヒメイワダレソウが敷地の緑化用として多く出回っている。
- 撮影：8月中旬



コウボウムギ

- 砂地に生育する高さ10cm～20cmの多年草。
雌雄異株で地下茎で広がり群生する。
- 花びらはなく花序(かじょ)と呼ばれる多数の花が集まる。
- かつて葉鞘の繊維から筆を作っていたことから、弘法大師にちなんでこの名が付いた。別名フデクサ。
- 撮影：4月下旬



コマツヨイグサ

- 海岸や河原の砂地に生息。
- 夕方から早朝にかけて花が開き、しぼむと赤くなる。
- 在来の砂丘植物と競合し影響を与える。外来生物法により要注意外来生物に指定された。
- 撮影：8月中旬



オオキバナカタバミ

- 南アフリカ原産。世界中で帰化し、温帯に分布。日本では19世紀後半、観賞用に輸入されたものが逸脱。
- 在来春植物とニッチ（生態的地位）を競合。
- 花の直径は1.5cm～3cm。葉に紫褐色の斑紋があるのが特徴。群生する。
- 撮影：3月中旬



センニンソウ

- 日当たりの良い場所を好むつる性の半低木。
- 園芸品にもなっている。茎や葉から出る汁に触れると炎症を起す有毒植物。
- 名の由来は、花の後に髭のような白い長毛を付けた実がなることから。
- 撮影：9月上旬



タチアワユキセンダングサ

- 別名、オオバナノセンダングサ
- アメリカ原産。日本へは観賞用として幕末頃に導入された。温暖な地域に帰化。
- 高さ150cmほど。舌状花はコシロノセンダングサよりも大きめ。実は細長く先端にトゲがあり、衣類や動物に付いて運ばれる。
- コセンダングサは変種が多く、筒状花のみのコセンダングサ、白い舌状花を持つシロノセンダングサ、両者の雑種とされるアイノコセンダングサなどがある。分類が難しく、これらをまとめてコセンダングサとする見解もある。
- 撮影：11月上旬



ツルソバ

- 暖地の海岸に生育する多年草。
- 小さな花が枝の先に集まって咲く。
- 名の由来は葉や花がソバに似ていることから。
- 撮影：10月下旬



テリハノイバラ

- 野生バラの一種で、ノイバラよりも葉に光沢があるため「テリハ（照葉）」と言われる。
- 匍匐性の落葉低木。地を這って伸びるためハイイバラとも言われる。
- 撮影：7月下旬



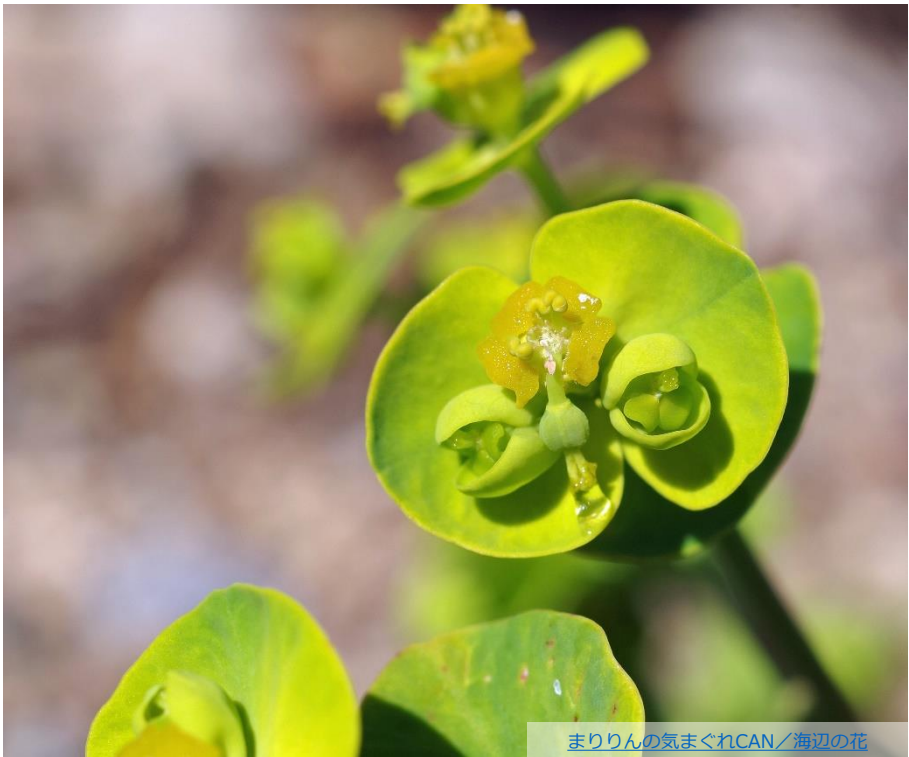
ナノハナ

- 菜の花（なのはな）はアブラナ科アブラナ属の花の総称。
- 弥生時代に中国より渡来したと言われる。
- 古くから食用とされており、後に採油用としても栽培されるようになった。
- 観賞用は菜花（ナバナ）、食用は花菜（ハナナ）と呼ばれる。



ハギクソウ

- 砂地に生えるトウダイグサ科の多年草。
- 在来種。絶滅危惧種。
- 春に黄色い小さな花が咲く。
- 冬には葉が赤や黄色に紅葉する。
- 葉の形が菊の花に似ていることからハギクソウ（葉菊草）と呼ばれる。
- 撮影：3月下旬



バクヤギク

- 多肉質の多年草。園芸種として導入されたものが逸出・野生化している。
- 茎は分枝しながら這って広がる。海浜で地表を覆うように群生し、砂の移動を押さえ小砂丘を形成する。
- 栄養繁殖能力が高く、一枚の葉から発根して定着してしまう。
- 国内の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種としてリストアップされている。
- 撮影：11月上旬



ハマアザミ

- 太平洋岸の砂地に生えるキク科の多年草。
- 在来種。
- 葉は肉厚で艶があり、縁にはトゲがある。
- 根は食用になる。別名ハマゴボウ。
- 撮影：10月上旬



ハマカンゾウ

- ノカンゾウに似ていて海岸付近を生育地とするのでハマカンゾウと呼ばれる。
- ワスレグサ科(旧ユリ科)の多年草。
- 花は濃い黄色やオレンジ色。
- 朝に開いて夕方にはしぼむ一日花。
- 常緑の葉は質が厚く光沢があり、冬でも枯れないのが特徴。
- 撮影：9月上旬



ハマゴウ

- 暖地の砂地に群生するシソ科の小低木。
- 茎は砂上を這い広がって複雑な根を張り、砂の流出を抑えるのに役立つ。
- 枝は立ち上がって高さ30～70cmになる。
- 冬になると落葉するので、姿がわかりやすい。
- 夏から初秋にかけて淡青紫の花が咲く。
- 丸い実は黒く熟すと海流により運ばれる。
- 良い香りがすることからハマゴウ（浜香）と呼ばれ、古くから親しまれている。
- 撮影：10月下旬



ハマダイコン

- 海や川沿いの砂地に自生する多年草。茎は高さ30～70cm。春に開花し群生する。
- 花は薄ピンクや白。数珠状の実がなる。
- 根は細く硬く、とにかく辛いらしい。ダイコンとは遺伝子的に異種という報告もある。
- 撮影：3月下旬



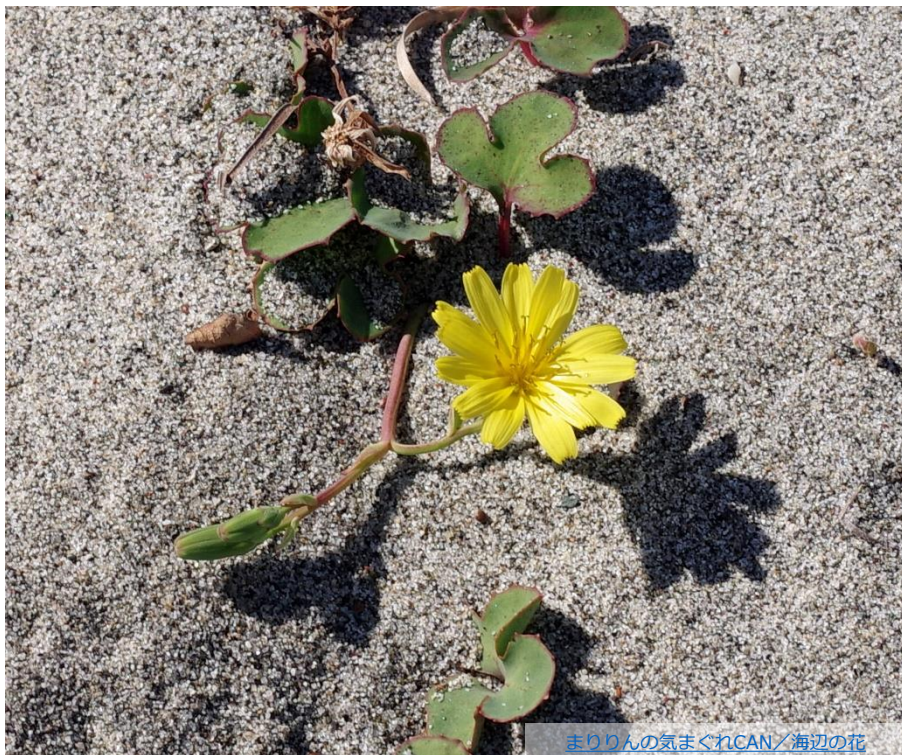
ハマナデシコ

- 太平洋沿岸の崖や砂地に生育する多年草。日本海側には少ない。
- 花色が藤に似ていることから「フジナデシコ」の別名がある。
- 撮影：6月中旬



ハマニガナ

- 海岸の砂浜で地下茎を長く直線状に伸ばして増える。
- コウボウムギやハマヒルガオなどと共に生育する多年草。
- 砂を被ってもすぐに茎を伸ばして葉を砂の上に出す。
- 葉がイチヨウの葉に似ているので別名ハマイチヨウという。
- 撮影：10月下旬



ハマヒルガオ

- 海岸の砂地に生育するヒルガオ科の多年草。
- 同属他種がつる性植物なのに対して、ハマヒルガオは匍匐（ほふく）性植物で地を這う。
- ハート形の葉をもつ。
- コマツヨイグサに生育地を奪われつつある。
- 撮影：6月上旬



ハマユウ

- 水はけが良い暖地の海岸に見られる。ヒガンバナ科の多年草。
- 名の由来は、浜辺に咲き、白い花の様子が神事に使われる木綿（ゆう）に似ているから。また、葉がオモト（万年青）に似ていることから別名「ハマオモト」という。
- 白く細長い6枚の花びらは反り返る。
- 撮影：9月上旬



用語集 (Wikipediaから抜粋)

- ロゼット 全ての葉がバラの花弁のように1ヶ所から放射状に重なり合って並ぶように見える。
- 栄養繁殖 植物の生殖の様式の1つ。栄養生殖とも呼ぶ。胚・種子を経由せずに根・茎・葉などの栄養器官から、次の世代の植物が繁殖する無性生殖である。
- 鱗茎 短い地下茎に、栄養分を貯めた葉が密生したもの。園芸でいう「球根」の多くは鱗茎である。
- ニッチ 生物学では生態的地位を意味する。一つの種が利用する、あるまとまった範囲の環境要因のこと。
- 小低木 樹木の成長したときの高さがおよそ1m以下のもの。

海辺の花

渥美半島外海側に見る野生の花
2024年4月26日～5月1日
ワキタギャラリーにて

Webサイト：[まりりんの気まぐれCAN／海辺の花](http://homepage1.bb-west.ne.jp/sakura/)
<http://homepage1.bb-west.ne.jp/sakura/>



この冊子は写真展のキャプションをA5サイズに
まとめたものです

2024年4月作成